

ふなから

第33号

2021年9月30日発行
編集・発行 上村直樹
〒278-8510
千葉県野田市山崎2641
東京理科大学薬学部内
印刷・菅原印刷株式会社



「薬学部野田キャンパス」理窓会 近藤明氏（工・工化1973）撮影

CONTENTS

1. 同窓会会長挨拶（上村 直樹）	2	11. トピック	
2. 副会長挨拶（武田 直子）	3	研究室紹介 医療分子生物学研究室（高澤 涼子）	19
（田畑 新）	3	免疫創薬学研究室（原田 陽介）	20
（磯部総一郎）	4	恩師からのたより（武田 健）	22
（伊集院一成）	4	12. 生涯学習プログラム 2021年度後期講座のご案内	24
（真野 泰成）	5	13. 理窓会からのご案内（増淵 忠行）	25
3. 学部長挨拶（宮崎 智）	5	14. 会費納入のお願い	26
4. 退任の挨拶（上村 直樹）	6	15. 定例会に参加しませんか！	26
5. 同窓会ホームページをリニューアルしました	7	16. 登録情報の変更方法	27
6. 令和4（2022）年度同窓会総会案内	8	17. 会費・寄付金納入者一覧	27
7. WEB名簿システムについて	8	18. 終身会員一覧	27
8. 令和3（2021）年度同窓会総会のご報告	13	19. 訃報	31
9. 新旧薬学部写真集	16	20. 同窓会の連絡先およびホームページ	32
10. 卒業生報告 近況報告（池北 雅彦）	18	21. 編集後記	32
		22. 同窓会幹事一覧	32

同窓会会長挨拶

東京理科大学 薬学部同窓会 会長 上村 直樹 (23期)



2021年7月の総会において2期目の会長を拝命しました。どうぞよろしくお祈りします。

1期目以上に会務の充実を図っていきたいと思います。今回の総会で特筆すべきこととして会則変更があります。「副会長4名」を「5名以内、ただし年齢、性別、職域などに偏りがないように努める」にしました。主な趣旨は女性の役員を増員したいというものです。薬学部の半数は女性ですが、同窓会役員は男性だけのため改革したいと長年考えておりました。今回は第一歩です。役員が半数が女性になることを目指したいと思います。

さて、新型コロナウイルスの影響により、去年は定例会も開催できずにおりましたが、今年4月10日にオンラインで開催しました。多くの方にご参加いただき感謝申し上げます。オンラインで開催したことで、いままで参加できなかった地方の方も参加できるというメリットもあります。今後もハイブリッド方式にすることで、距離に関係なく定例会に参加できますので、同期生をお誘いの上、是非ご参加下さい。

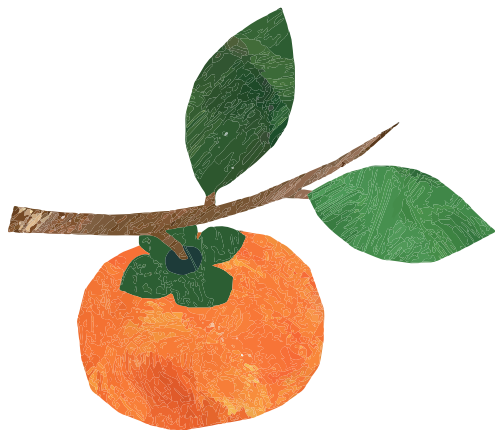
東京理科大学は今年で140周年を迎えます。また、薬学部は2020年に60周年を迎えました。60周年記念式典はコロナ禍のため中止になりましたが、この「ふなかわら」

に記念誌を同梱いたしましたので、是非ご覧下さい。

薬学部は2025年には野田キャンパスから葛飾キャンパスに移転します。船河原キャンパスから野田キャンパスに移転したのが2003年ですから、20年ほどで移転することになります。私の時代は船河原でした。道路から10歩で教室という狭いキャンパスでしたが、思い出はたくさんあります。神楽坂に戻れなかったのは残念ですが、都内に戻ったことによるメリットは計り知れないものがあります。今後の発展に期待しましょう。

現在、私は理窓会の常務委員も拝命しています。他にも薬学部卒の常務委員が2名います。理窓会の活動にも積極的に参加して薬学部をアピールしていきたいと思えます。その1つとしてホームカミングデーがあります。去年は中止でしたが、今年オンラインで開催します。薬学部同窓会を紹介する動画サイトを開設する予定です。こちら本誌にガイドブックを同梱しておりますので、是非ご覧下さい。

コロナウイルスが早期に収束して、定例会後のビールが飲めることを祈っています。もちろんオンライン参加の方とも。定例会でお目にかかることを期待しております。



副会長挨拶

東京理科大学 薬学部同窓会 副会長 武田 直子 (16期)



最初に、コロナ関連により亡くなられた方々のご冥福をお祈りいたします。

私は、現在65歳。理科大薬学部薬学科卒業後薬剤師となり、みちのく山形[🍡]に帰り県職員として県立病院に勤務し、退職後保険薬局に勤務しておりました。薬局勤務が体力的にも厳しくなり、今年5月に退職し現在は無職、目覚まし時計をセットしない生活にもようやく慣れたところです。退職時も周りからは「次は何をするの？今はしっかりした専門がある人でも副業する時代だよ。薬剤師以外の副業も何かあるでしょ？」と声をかけられ、次の一歩は？と考えている所です。病院薬剤師時代から勤務以外にも、県内では山形県薬剤師会の委員・役員を務め、全国では日本薬剤師会の委員・代議員も兼務、さらにコーチングを学びプロコーチとしての活動もしてきました。東京から離れ大学との繋がりはあまりない中、前会長の石井さんから日本薬剤師会学術大会の同窓会で声をかけていただいたことをきっかけに、同窓会16期幹事となりました。

そんなあなたが、なぜ副会長に？と疑問に思われる方もいらっしゃることでしょう。それは、理科大薬学部同窓会にもオリンピック開催で一気に日本に広がったSDGsの波がやってきたからに他ならないでしょう。ジェンダー問題は、薬剤師という資格社会で生きてきた私に

とっても大きな壁でした。これが同窓会変革の先駆けです。せっかく総会でも承認していただけた副会長ですので、他の方々と力を合わせ勤めていく所存です。

私にとって同窓会は、会話がサクサクと建設的に進む居心地のいい場所です。そうです！理科大薬学部同窓会は、日本のトップレベルの頭脳が集まっているではありませんか！

＜同窓会参加の意義＞

- ・自分の視野を広げる＝年齢・経験・職業も違う頭脳から出る新しい視点
- ・後輩育成に貢献する＝国際的に活躍できる人材へ
- ・本業以外の副業発見のきっかけ作り
- ・多方面への人脈作り＝顔を突き合わせた（Zoom会議でも可）関係作り

まずは、半数はいる女性会員参加型の同窓会の組織作りが出来ればと思います。キーは、人です。遠くからでも、Zoomでも、何年ぶりでも、気負わずフラーっと参加してみませんか？

現役世代の皆さま、仕事での人脈作りだけでなく今まさに副業時代。本業以外にどんな副業を見つけられるか？同窓会での出会いも面白いかもしれません。

まずは、皆様のご参加・ご協力をよろしくお願いいたします。

副会長挨拶

東京理科大学 薬学部同窓会 副会長 田畑 新 (16期)



2021年7月の同窓会総会で副会長に選任されました16期の田畑新（たばたあらた）です。同窓会の活動ですが、同窓会幹事会の後の飲食を伴う情報交換の懇親会にひかれて20年ほど前に同期の遠藤君、武田さん、今さん、関口さんらと黒崎さんが同窓会会長のころ幹事になりました。3代目の石井会長時代には国会議事堂の見学など経験させて頂きました。

企業に勤務しているものとして同窓会の役割として一番大事なのはやはり業務での人脈構築のサポートではないかと思っています。過去、社内外の薬学出身の先輩・後輩との関係で色々良い経験をさせて頂きました。今後在宅勤務で直接の人間関係が薄れていく中で、東京理科大らしい組織構築ができないかと思っています。国際化が進めば海外での他学部横断のオール東京理科大の同窓会組織が大事になるかもしれません。

二番目に大事なのは神楽坂校舎、野田校舎、次回の葛飾校舎出身の同窓生の一体化ではないかと思っています。葛飾校舎移転に関して色々な検討課題がでてくると思います。偶然現在住んでいるところから葛飾校舎は近いこと

もあり、今後何等かのサポートができるのではないかと思います。まだなにも具体的なことに関与していませんが、上村会長を中心として同窓生の意見を取り入れ、同窓会活動が益々活性化することの一助になればと思っています。

自己紹介ですが、大学時代は4年時に放射化学の久保寺研究室から理化学研究所に外研として派遣されていました。大学卒業後は中堅製薬会社の創薬研究所（薬理）を経て持田製薬に入社。その後一貫して30数年にわたり事業開発業務を担当。医療機器でシーメンスとのJV設立、各種新薬導入業務、欧州支所代表（在オランダ5年半）など海外事業を経験しました。

役職定年後は、2014年に難病治療薬開発販売を主業務とする2003年創業のベンチャー会社、ノーベルファーマに入社、事業開発・アライアスマネジメント全般を担当して8年目に入りました。業界活動は医薬品企業法務研究会、日本ライセンス協会等に所属しています。事業開発関係で情報共有されたい同窓生はご連絡ください（tabata@nobelpharma.co.jp）。

副会長再任のご挨拶

東京理科大学 薬学部同窓会 副会長 磯部 総一郎 (22期)



本年の総会で副会長に再任されました22期卒業の磯部総一郎です。

皆様、今後ともよろしくお願ひいたします。

私は、1985年3月(22期)に東京理科大学薬学部薬学科を卒業しました。

研究室は薬理学(故久保田和彦教授)教室です。

その後、厚生省(現厚労省)に入省し、厚労省で医薬品や医療機器、再生医療製品の承認審査や薬価・調剤報酬業務、内閣府食品安全委員会にて食品の安全確保業務、外務省のウィーン代表部で外交官として国際麻薬統制業務などを担当してきました。

厚労省時代には、薬価制度における新薬創出・適応外薬解消等促進加算の創設、ジェネリック医薬品の使用促進制度、医薬品最適使用ガイドライン制度、医療用医薬品販売情報提供活動ガイドラインの策定、医療機器のクラス分類、高度管理医療機器販売業許可制度、許可業者の法令遵守制度、課徴金制度の創設といった種々の政策や薬機法改正などに携わることができました。

また、2008年に大学との関係では、医薬分業史の研究で東京理科大学から博士(薬学)の学位をいただきました。

その後、2019年7月に厚労省を退職して、現在、日本薬剤師会で働いております。

同窓会運営も長いことお手伝いさせていただきましたが、やはり同窓会は、同じ大学の薬学部を卒業した先輩後輩同期など仲間が気楽に集まって、最近どう?など学

生時代を思い出しながら、一杯かたむけるというのが原点なのではないかと思ひます。

そういう意味では、この1年半コロナ禍でそのような機会が作れていないのは、残念でなりません。早くまた皆さんと気楽にお会いできる機会が作れるのを楽しみにしています。

年に4回ほど行っている定例会は、6年制、4年制とも卒業生は皆さん薬学部同窓会の会員になっていますので、誰でも参加できます。

薬学部同窓会ホームページに掲載しておりますので、ふらっとでも一度参加していただくと楽しく過ごせます。

また、同窓会は、現在の薬学部学生など理科大薬学部の方々を応援しています。

卒業するとどのような仕事をするのかなどの実体験を学生に講義やディスカッションで伝えていきますし、薬学部医療薬学教育研究支援センターとの共同でシンポジウムなども開催しています。このシンポジウムなどもコロナ禍で開催できなくなっていることも残念なところです。

薬学部同窓会は、同窓生同士のつながりの機会を提供するとともに、同窓生と理科大薬学部の学生や教員の方々とのつながりも大事にしていきたいと思ひます。是非、これを読んでいただいている皆様、薬学部同窓会にたまには気楽に顔を出してください!よろしくお願ひいたします。

副会長挨拶

東京理科大学 薬学部同窓会 副会長 伊集院 一成 (25期)



皆様、こんにちは。同窓会副会長を拝命しております25期薬学科卒の伊集院一成と申します。2021年7月の総会で副会長2期目となりました。仕事のできない副会長で皆様にご迷惑をおかけしておりますが、何卒ご了承の程よろしくお願ひ致します。

私は理科大薬学部を1988年(25期)に卒業し、外資系製薬企業の臨床開発部に就職しました。当時は多くの卒業生が製薬企業に就職し、私もその大勢の卒業生の一人でした。臨床開発の仕事は非常に面白かったのですが、あるとき薬剤師のライセンスを持っていることに気づいてしまいました。この資格を生かすためにはどうしたら良いのかと熟考した結果、薬局に転職することにしました。薬局では、外来調剤だけでなく、在宅医療、無菌製剤、緩和医療と様々な業務に取り組むことができ、その取組は今の自分の財産になっています。昨年末には、多くの方のお力添えで念願の薬局を持つことができました。小さな薬局ですが、日々店頭に立っていると薬局業界に飛び込んだ頃の自分の想いが蘇ってきます。そろそろアラ還という年齢になったのですが、日々薬局に来る子供達

と接しているとどんどん若返っているような気がしています。(気のせいだと思います)

また、母校との関わりでは、薬学部薬学科の教員として講義・実習を担当させていただいております。同級生からは、「おまえが教員?」と驚かれる次第です。

薬学部同窓会が企画して始めた「実践社会薬学」は、現在では大学の正規科目となり、2年生対象に前期講義科目として継続して行われています。担当教員は昨年までは、上村直樹先生(現同窓会会長)、青山隆夫先生と私の3名で担当していましたが、今年度からは、上村直樹先生の退官に伴い真野泰成先生を加えた3名体制で担当しています。担当教員はALL理大卒となっています。新型コロナウイルス流行の関係で、大学の講義もその多くがZOOM等を用いたオンラインもしくは録画講義となっています。実践社会薬学は外部講師を招聘しての講義ですので、昨年と今年度はZOOMでの録画講義となりました。一日でも早くコロナが落ち着いて今まで通りの生活が戻ってくることを祈念して、挨拶とさせていただきます。これからよろしくお願ひいたします。

副会長挨拶

東京理科大学 薬学部同窓会 副会長 真野 泰成 (34期)



2021年7月より、東京理科大学薬学部同窓会副会長を仰せつかりました第34期の真野泰成(まのやすなり)と申します。何卒よろしく願い申し上げます。私は1997年(平成9年)に本学薬学部薬学科を卒業し、修士課程修了後、病院薬剤師として地元北海道の市立室蘭総合病院薬局、その後、金沢大学医学部附属病院薬剤部で勤務しました。金沢大学病院時代は、病棟担当薬剤師として患者の薬物治療に関わってきました。その後、新設された薬科大学の教員となり、2015年(平成27年)からは母校理科大で医療系薬学の教育と研究に携わっております。思えば、私は同期の友人から刺激を受けながら、また、同窓の先輩、後輩との繋がりを通して歩んできたといっても過言ではなく、同窓会が大きな存在になっていました。今回、副会長を仰せつかり、大変光栄に思うと同時に身の引き締まる思いであります。

東京理科大学薬学部同窓会は、1987年(昭和62年)に発足し、今年で創立34年になります。同窓会会則には、「本会は会員相互の親睦を厚くし、会員の教養、学識及び職能の向上を図るとともに、東京理科大学薬学部の教育及び研究の発展に寄与することを目的とする」と記されて

います。ご存じの通り、理科大薬学部の卒業生は、製薬メーカー等の企業、病院、薬局、研究所、大学、行政など各業界で活躍しています。業界や世代を超え、理科大薬学部で学んだという絆を通して、親睦を深め、情報交換をして、新たな仲間を作ることが出来るのが同窓会です。コロナ禍もあり、現在「同窓会定例会」はオンラインで開催され参加がし易い状況ですので、気軽に参加していただきたくお願いいたします。

また、同窓会は、同窓生の情報交換の場であるとともに、卒業生と母校との橋渡しの役目があります。同窓会では、薬学科の「実践社会薬学」、生命創薬科学科の「キャリア学習2」の科目において、各業界で活躍している卒業生を講師に招いて、在校生が自分の将来やキャリアを考える機会を支援しています。このように在校生への支援や大学のイベントへの協力などを通じて、薬学部との繋がりを密に進めていきたいと思っております。

最後に、若輩者ではありますが、同窓会のために微力ながら精一杯務めさせていただきます。今後ともご指導ご鞭撻の程、何卒よろしく願い申し上げます。

学部長挨拶

～柔軟性を力に変えて～

薬学部長 宮崎 智



2018年10月に第20代薬学部長となりました宮崎です。早いもので、2021年10月からは第2期の後半となります。同窓生の皆様には、引き続き多大なご支援をいただいております。大変ありがとうございます。

依然としてコロナウイルス感染症が猛威を奮っており、大学生の生活もこれまでになく変化しておりますが、本学薬学部は、感染症対策に十分注意しながら、できる限り対面での講義を実施しています。2020年度の前期こそ、リモート講義が中心でしたが、後期そして2021年度の前期は、8割以上の講義や実習を従来の対面型で実施するに至りました。この背景には、各教員のそれぞれの工夫とともに、昨年12月からの薬学部内に無症状者モニタリングを目的とした定期的なPCR分析が一因であると思えます。薬学部の教職員・学生の希望者は、無償でPCRを受けられるようにし(当初は週1回、7月からは週2回の定期分析日を運用)、当日に結果を得られる

仕組みを実現してきました。2021年6月には、保健所からの検査所としての許可もいただけ、野田市からの行政検査の一旦も担っています。また、10名以上の薬学部教員が、薬剤師としてキッコーマン病院などでワクチン接種業務の支援も行っております。PCRについては、偽陽性の問題や、陽性者が出た場合の学生のケアを心配して学部内や本学執行部からも慎重なご意見がありました。しかし、先に述べましたように、保健所からの検査所としての認定や「残念ながら」7月からのデルタ株の拡散を受け、本学でも感染者となった方やご家族が濃厚接触者となられるケースの急増もあり、無症状者を起点とするクラスター発生防止には大きく貢献するものとの理解を得られています。(幸いにも学内での感染やクラスターはありませんが、部活動や週末の学生による食事会などでの単発事例は散見)。ただし8月に入り、無症状者のモニタリング分析でも、デルタ株と見られる陽性

者が確認されるようになってきました（尚、薬学部の学生・教職員に対するモニタリングは全て陰性の結果となっています）。

コロナ禍で多くの行事が何らかの制限を受けましたが、長期実務実習や国家試験などは、むしろ例年よりも大きな成果を得ることができたと思います。長期実務実習では、事前実習と実際の実務実習ともに、ライブあるいはオンデマンドによる講義の効率化を併用しています。国家試験対策については、これまでの経験とデータサイエンスにより、各学生の弱点分析から卒業試験問題の評価のシステム化を構築してきました。教員の研究時間確保と教育効果の効率化を行うために、薬学コアカリキュラムを網羅するための必修科目の内容分析システムの開発と利用を、教授総会を含む各種会議の徹底した短縮化にもご協力いただいています。

2021年度の受験に関しては、本学他学部や他の薬学系大学では受験者数が減少する傾向がみられ、苦戦する中、本学薬学部は、両学科ともおおよそ好調でした。生命創薬科学科においては、A入試（センター入試による合否判定のカテゴリー）で受験者数が大幅に増加しました。

各予備校の事後評価を分析し始めていますが、偏差値等からみて本邦の私学の頂点に返り咲いたように思います。

上記のような結果が伴った背景には、「コロナ禍における制限＝諦め」とはせず、PCRやITの活用など、新しい要素や考え方に学部全体でのさまざまな工夫と対応があります。こうした「柔軟性」こそ、本学の逞しさであり、また、大きな力であると思います。

厳しい状況ではありますが、葛飾移転計画も着々と進行しています。7月からは基礎工事が開始され、各研究室レベルでの設計も最終段階に入ってきました。さらに、学長室・担当理事とも協調し、学外の評価委員（教育関係、企業、行政から選出）の意見による「将来構想」も完成し、その現実に向けたPDCAサイクルも起動しています。

コロナ感染症が落ち着きましたら、同窓会の方々とは是非懇親会をさせていただければと思います。地域や社会との接点を多く持ち、より多くのご意見を戴くことが重要と考えています。機会がありましたら、母校に立ち寄ってください。

皆様方のご活躍を心より期待しております。

退任の挨拶 「薬学部の定年を迎えて」

実務薬学教室（薬局管理学） 上村 直樹



1998年に薬剤学実習（調剤実習）の非常勤講師として母校に戻り、薬局での実務経験を活かす教育をして参りましたが、本年3月末で退職いたしました。長きにわたりお世話になった先生や事務職員の皆様に感謝申し上げます。

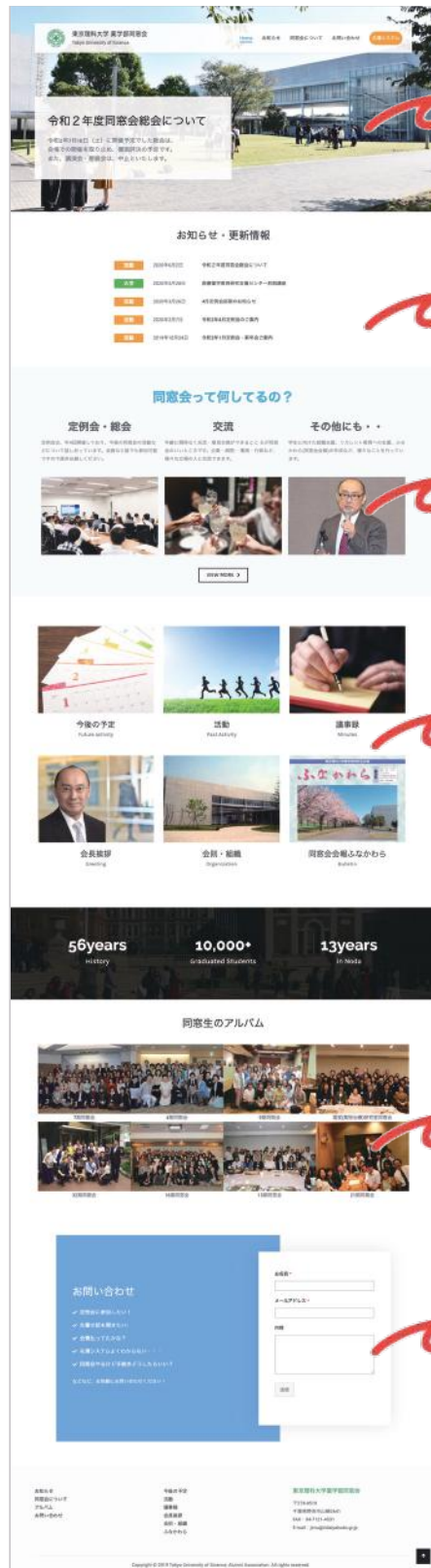
当時の調剤実習では、私の薬局から薬剤を20品目ほど持参して階段教室の最前列に並べ、模擬処方箋に従って調剤するという実習でした。また、散剤の実習では実習期間中だけメーカーから分包機をお借りして、実施した

ことを覚えています。「戦争に鉄砲を持って行かないようなものだ」と発言した先生を今でも思い出します。2006年に薬学教育6年制になることで、教授（みなし専任）として研究室もいただき勤務しました。過去の理科大とは違い、素晴らしい調剤実習室や設備ができあがり、現在の理科大生は幸せだなと思いました。

今後は囑託として、また薬学部同窓会会長として、時々お邪魔することがあると思います。その際はどうぞよろしく願います。



同窓会ホームページをリニューアルしました



トップ画面

- ✓ 重要なお知らせはこちらに表示されますので、パッと一目で分かりやすくなっています。
- ✓ メニュー欄の名簿システムボタンから名簿システムにアクセスできます。

お知らせ

- ✓ 直近のお知らせ5つが表示されます。
- ✓ 大学からのお知らせもこちらから閲覧できます。

同窓会について

同窓会での活動を具体的に掲載しています。定例会はどなたでも参加できますので、同窓生と一緒にカフェ気分でお越しください♪

活動予定・記録等

- ✓ 同窓会の活動予定や活動記録を閲覧できます。
- ✓ 今までのふなかわらも全て閲覧できます。見逃し配信を要チェック！

アルバム

同窓生で集まった際の写真などを掲載しています。懐かしいメンバーにWEB上で会いに行こう！

お問い合わせ

同窓会に関してご不明な点やご要望等ありましたら、こちらよりお気軽にお問い合わせください。

スマホ対応もしています！
今すぐHPをチェックしよう！！

東京理科大学 薬学部同窓会

検索



令和4(2022)年度東京理科大学薬学部同窓会総会について

皆様には益々御健勝のこととお喜び申し上げます。

さて、来年度の同窓会総会につきましては、令和4(2022)年7月の開催を考えておりますが、今後の新型コロナウイルスの状況をみながら検討を進めて参ります。詳細は、随時、ホームページまたはメールにてお知らせいたします。どうぞご了承くださいませようお願い申し上げます。

令和3(2021)年10月

東京理科大学薬学部同窓会
会長 上村 直樹

【ホームページ】 <http://www.ridaiyakudo.gr.jp/>

【お問合せ】 東京理科大学薬学部同窓会 事務局
278-8510 千葉県野田市山崎2641
東京理科大学薬学部内

FAX : 04-7121-4531

E-mail : jimu@ridaiyakudo.gr.jp



WEB名簿システムについて

東京理科大学薬学部同窓会では、2017年よりWEB名簿システムを採用しております。このシステムは、同窓会事務局が行っている会員管理機能と名簿機能の両者を併せ持つシステムです。会員個人がインターネット上で登録情報を更新し、その個人情報の公開の可否を項目毎に選択することができるため、会員の情報開示の意志に沿ったシステムとなっています。

このふなかわら33号に、WEB名簿システムの利用方法を掲載しております。また別紙にて、WEB名簿システムを利用するときに必要な会員コードとパスワードを同封しております。これまでこのシステムをご利用でない方は、なるべく早めにこのシステムにログインしていただき、パスワードの変更、登録情報の確認、情報公開の可否を登録していただきますようお願いいたします。

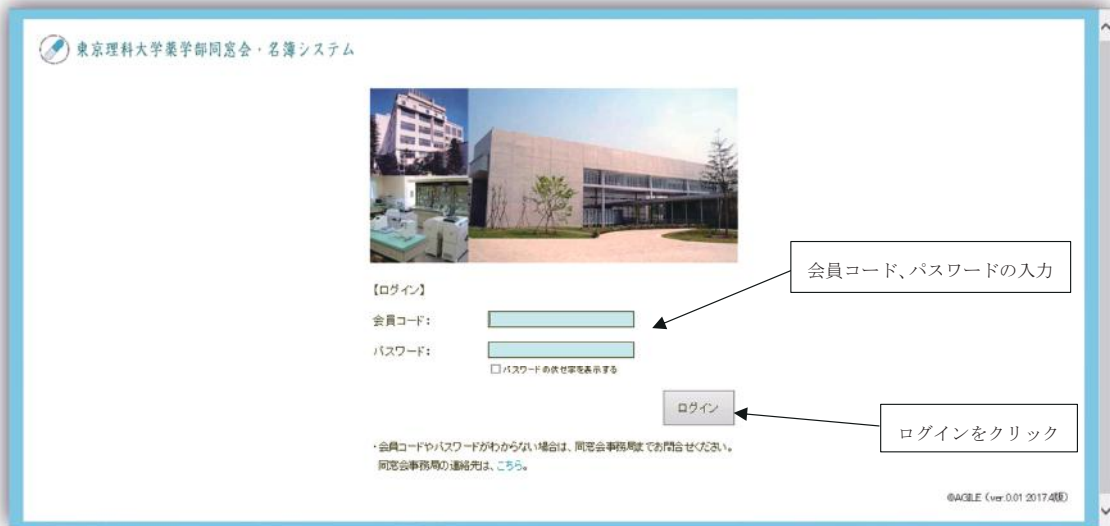
今後、同窓会からのお知らせ等をご登録いただいたメールアドレスに配信する予定ですので、メールアドレスをお持ちの方は必ずご登録ください。もしお持ちでない方は、連絡がとれるご家族等のアドレスでも結構です。

WEB名簿システムは、同窓会ホームページ <http://www.ridaiyakudo.gr.jp/> からご利用になれます。皆様のご利用をお待ちしております。



名簿システムのご利用方法

1 理科大薬学部同窓会のホームページ (<http://www.ridaiyakudo.gr.jp/>) を開きます。YahooやGoogleなどで「理科大薬学部同窓会」と入力して検索しても見つかります。ホームページの「名簿システム」ボタンをクリックすると、下のようなトップ画面が表示されます。そこに会員コード、パスワードを入力し、ログインをクリックしてください。会員コードやパスワードが分からない場合は、同窓会事務局までお問合せください。

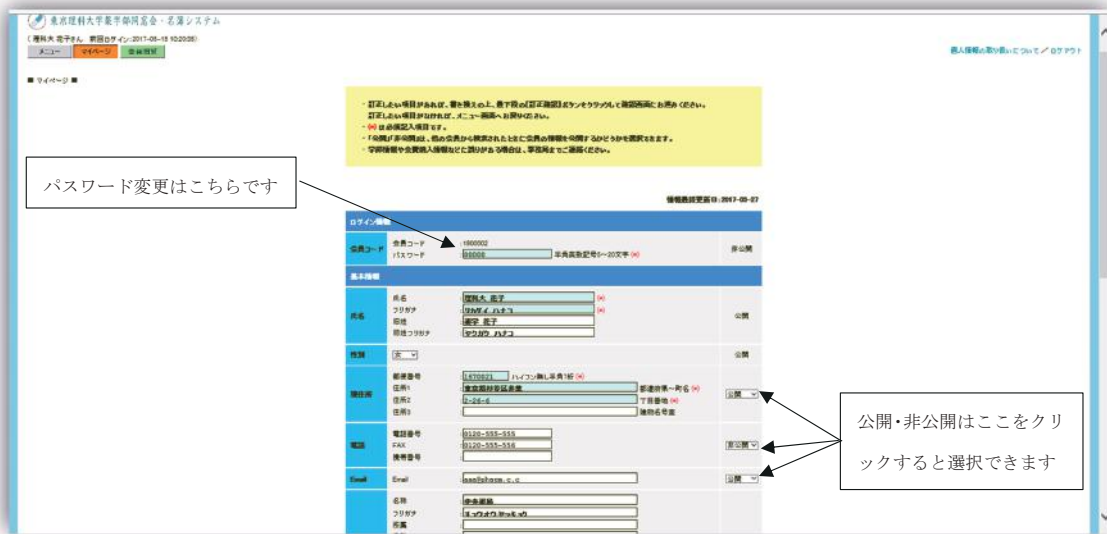


2 ログイン後、下のようなメニュー画面が表示されます。ご自分の登録情報の確認や訂正をしたい場合は「マイページ」を、他の会員の方の情報をご覧になる場合は、「会員閲覧」をクリックします。

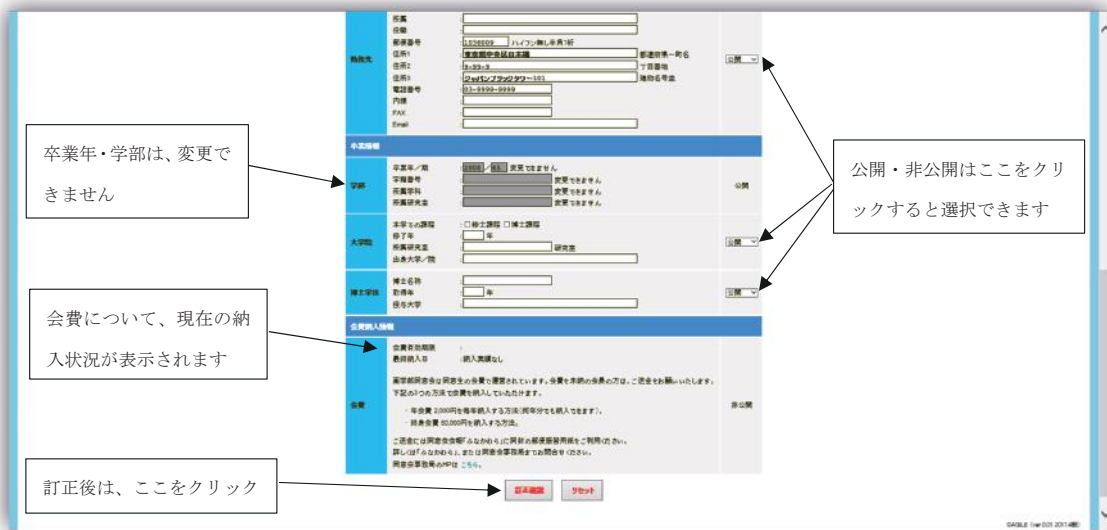


* 会員閲覧の情報は、各会員が登録の確認を実施するまでは基本情報しか公開されません。

3 マイページ画面では、登録情報の確認・訂正や、情報の公開・非公開の選択、パスワードの変更ができます。



4 登録情報の訂正、公開・非公開の選択、パスワードの変更をした後は、必ず画面一番下の「訂正確認」をクリックし、画面の指示に従ってください。事務局で確認後、訂正された情報が本登録されます。



5 会員閲覧画面では、まず検索画面が表示されますので、閲覧したい会員の条件を入力し、「検索」をクリックしてください。

東京理科大学薬学部同窓会・名簿システム
(アジルテストさん 前回ログイン:2017-06-23 10:38:31)
メニュー マイページ 会員閲覧 個人情報取り扱いについて / ログアウト

■ 会員閲覧 ■
会員抽出条件 (複数の条件を指定するとAND検索になります)

氏名
フリガナ : [アジル] (部分一致)
旧姓 : (部分一致)
旧姓フリガナ : (部分一致)

性別 : []

現住所 : (部分一致)

学部
所属学科 : []
卒業年/期 : [全卒業] (部分一致)
所属研究室 : []

検索 リセット

©AGILE (ver.0.01 2017.4版)

6 検索結果が表示されます。

東京理科大学薬学部同窓会・名簿システム
(アジルテストさん 前回ログイン:2017-06-23 10:38:31)
メニュー マイページ 会員閲覧 個人情報取り扱いについて / ログアウト

■ 会員閲覧 ■ 1件、抽出しました

氏名	旧姓	性別	学科	学部研究室	卒業年/期
アジルテスト	アジルテスト	男	薬学科		2008/45

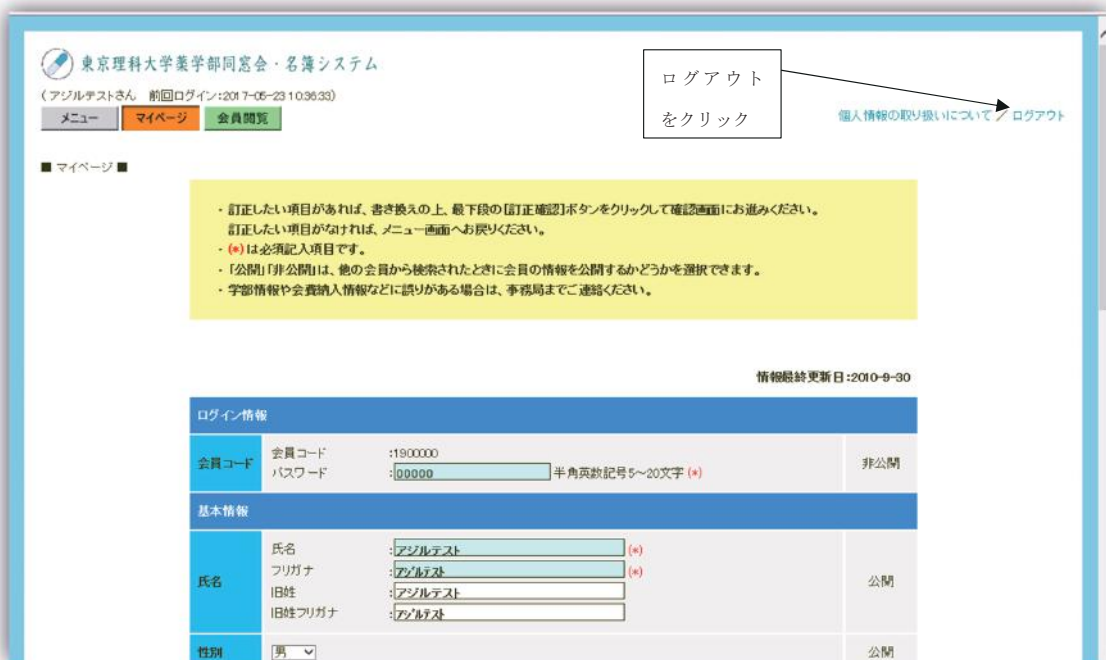
氏名をクリック

©AGILE (ver.0.01 2017.4版)

7 氏名をクリックすると、公開されている情報のみ閲覧することができます。



8 終了するときには、ログアウトをしてください。画面右上の「ログアウト」をクリックすると、ログアウトしてトップ画面に戻ります。



令和3（2021）年度同窓会通常総会報告

令和3（2021）年度同窓会通常総会は、新型コロナウイルスの影響を考慮し、会場での開催を取り止め、令和3（2021）年7月1日～7月19日の期間で、メールによる書面表決を行いました。

主な議題は次の通りで、いずれの議題も原案の通り承認されました。

また、総会資料の年度表記について、和暦のみの表記ではなく西暦表記を入れた方が分かりやすいのではないかとの意見が出され、正副会長で審議の結果、今年度の総会資料から、和暦と西暦を併記することとなりました。

第一号議案	令和2（2020）年度事業報告の件	第五号議案	会則改正の件
第二号議案	令和2（2020）年度決算報告及び監査報告の件	第六号議案	会長承認の件
第三号議案	令和3（2021）年度事業計画案の件	第七号議案	副会長、会計担当幹事、
第四号議案	令和3（2021）年度予算案の件		監査役承認の件

第一号議案

令和2（2020）年度事業報告

- 同窓会通常総会の開催
令和2（2020）年7月16日～20日
→ 新型コロナウイルス対応により、書面にて採決
- 同窓会会報「ふなかわら」第32号の発行
令和2（2020）年10月5日
- 地区交流会の開催 令和2（2020）年10月10日
第52回日本薬剤師会学術大会（札幌）に合わせて、交流会開催
→ 新型コロナウイルス対応により、開催中止
- 新会員勧誘 資料を243名に送付
令和3（2021）年1月29日
会費納入は、令和3（2021）年3月卒業生（58期）28名、大学院修了者 6名
- 卒業生・修了生全員に卒業・修了記念品（記念スパーテル）を贈呈 令和2（2020）年9月26日、令和3（2021）年3月18日
- 卒業記念謝恩会へ祝金10万円を贈呈
→ 新型コロナウイルスの影響により、謝恩会開催中止
- ホームページのメンテナンス
- WEB名簿システムのメンテナンス
- 定例会の開催 令和3（2021）年2月13日
→ 新型コロナウイルス対応により、オンラインで開催
- 正副会長会の開催
令和2（2020）年6月22日、12月12日
- 大学関連
 - 薬学部60周年行事への協力
→ 新型コロナウイルスの影響により、式典等の開催中止
 - 医療薬学教育研究支援センターへの協力
 - 就職懇話会への協力（令和2（2020）年7月11日）
 - 実践社会薬学への協力
- 理窓会関連
 - 理窓会ホームカミングデーへの協力
→ 新型コロナウイルスの影響により、開催中止
 - 理窓会関連団体交流会（第8回）への参加（令和3（2021）年3月20日）
→ 新型コロナウイルスの影響により、オンラインで開催

第二号議案

令和2年度会計報告

東京理科大学薬学部同窓会

令和2年4月1日～令和3年3月31日

収入の部		支出の部		
内訳	金額	内訳	金額	摘要
同窓会費	2,210,000	人件費	557,337	アルバイト代
預金利息(合計)	459	通信費	29,358	さくらインターネット
		諸案内状印刷発送費	1,671,161	ふなかわら印刷発送(番原印刷)
寄付金	90,000	郵便代(宅配代も含む)	21,321	郵便代、宅配代
		文具・事務経費	71,622	WEB会議用機器、振込料など
総会懇親会参加費	0	プリンター経費	79,800	実務薬学研究室
理窓会より総会祝い金	0	講演会謝金	0	講師御礼
		地区交流会懇親会参加費	0	会場費・機器使用料・研修シール代
		同窓会パンフレット作成、送付	117,480	0
資産より繰り入れ	785,776	卒業謝恩会祝金	0	新型コロナウイルスの影響で中止のため
		卒業記念品代	178,200	記念スパーテル270本
		交際費	30,456	事務課他 お中元・お歳暮等
		同窓会協賛金	0	
		地区交流会懇親会費	0	
		ホームページ維持費	132,000	エス社
		WEB名簿システム維持費・構築費材料	82,500	アジュール社
		理窓会関連団体交流会懇親会費	0	新型コロナウイルスの影響でWEB開催のため
		理窓会ホームカミングデー	0	新型コロナウイルスの影響で中止のため
		雑誌広告	6,000	同窓会会報2021年1月号
		就職懇話会謝金	0	
		学会等協賛金	0	
		送費	89,000	返金4件(重複会費等)
合計	3,066,235	合計	3,066,235	

資産内訳	
郵便局振替口座	1,463,199
定期預金(三菱UFJ銀行)	4,531,455
普通預金(三菱UFJ銀行)	1,834,187
普通預金(みずほ銀行)	3,035,484
ゆうちょ銀行	3,096,447
現金	249,119
	14,173,891

2021年5月30日

会計

牧田 美穂



監査報告

会計報告の各事項を調査し、その収支ともに正確であることを認めます。

2021年6月3日

会計監査

青山 隆夫

花岡 慎子



第三号議案

令和3（2021）年度事業計画案

- 同窓会通常総会の開催
令和3（2021）年7月1日～19日
→ 新型コロナウイルス対応により、書面にて採決
- 同窓会会報「ふなかわら」第33号の発行
令和3（2021）年10月
- 地区交流会の開催 令和3（2021）年9月19日
第53回日本薬剤師会学術大会（福岡）に合わせて、交流会開催

- 新型コロナウイルス対応により、開催は中止
4. 新会員勧誘 資料を送付 令和4(2022)年1月
 5. 卒業生・修了生全員に卒業・修了記念品(記念スパーテル)を贈呈
令和3(2021)年9月、令和4(2022)年3月
 6. 卒業記念謝恩会へ祝金10万円を贈呈
令和4(2022)年3月
 7. 同期会開催に際し、祝金3万円を贈呈
 8. ホームページのメンテナンス
 9. WEB名簿システムのメンテナンス
 10. 定例会の開催
令和3(2021)年4月10日にオンライン開催、
令和3(2021)年9月、令和4(2022)年1月を予定
 11. 正副会長会の開催
令和3(2021)年4月4日、5月30日
 12. 大学関連
 - ・薬学部60周年行事への協力
 - ・医療薬学教育研究支援センターへの協力
 - ・就職懇話会への協力(令和3(2021)年7月10日)
 - ・実践社会薬学への協力
 - ・その他
 13. 理窓会関連
 - ・理窓会ホームカミングデーへの協力
 - ・理窓会関連団体交流会(第9回)への参加
(令和4(2022)年3月)
 - ・その他

第四号議案

令和3年度収支予算案
東京理科大学薬学部同窓会
令和3年3月1日～令和4年3月31日

収入の部		支出の部	
内訳	金額	内訳	金額
同窓会費	3,000,000	人件費(アルバイト代)	700,000
総会懇親会参加費	0	通信費(さくらインターネット、ウィルスバスター)	30,000
地区交流会懇親会参加費	0	印刷発送費(ふなかわら)	1,700,000
		郵便代(宅配代も含む)	100,000
		文具・事務経費	50,000
寄付金など	50,000	プリンター経費	79,900
預金利息	2,000		
		総会講演会旅費	0
資産より繰り入れ	664,800	総会雑費	0
		総会懇親会費	0
		同窓会パンフレット作成、送付	130,000
		卒業謝恩会旅費	100,000
		卒業記念品代(記念スパーテル)	200,000
		交際費(事務課他 お中元・お歳暮)	35,000
		同期会協賛金(5期分)	150,000
		地区交流会懇親会費	0
		ホームページ維持費	132,000
		WEB名簿システム関連費	100,000
		理窓会関連団体交流会懇親会費	10,000
		理窓会ホームカミングデー	30,000
		雑誌広告	10,000
		就職懇話会旅費	10,000
		学会等協賛金	100,000
		予備費	50,000
合計	3,716,800	合計	3,716,800

第五号議案

会則改正の件

1. 改正の趣旨

副会長の人選に関して、同窓会会員の会員構成の現状を鑑み、年齢、性別、職域などに偏りが無いように努めるとともに、副会長の人数を1名増員する

ことで、会員がより参加しやすい同窓会を作り上げるため、副会長の人数、人選の考え方について会則を変更したいとするもの。

東京理科大学薬学部同窓会会則(案)

第1章 総則

(名称)

第1条 本会は東京理科大学薬学部同窓会と称する。(事務所の所在地)

第2条 本会は事務所を千葉県野田市山崎2641番地 東京理科大学薬学部におく。

(目的)

第3条 本会は会員相互の親睦を厚くし、会員の教養、学識及び職能の向上を図るとともに、東京理科大学薬学部の教育及び研究の発展に寄与することを目的とする。

(事業)

第4条 本会は上記の目的達成のため次の事業を行う。

1. 本会の目的遂行のため必要な印刷物の発行
2. 研究会、講演会、その他各種集会の開催
3. その他、本会の目的を達成するために必要な事業

第2章 会員

(会員の資格)

第5条 本会は次の会員をもって構成する。

1. 会員 東京理科大学薬学部の卒業生及び大学院修了者
2. 正会員 会員のうち会費を納めたもの
3. 準会員 本学薬学部在籍する学生
4. 特別会員 本薬学部現及び元職員及び本学薬学部出身者以外で本会の目的に賛同され、定例会で承認されたもの(但し、正会員であるものは除く)

(会員の義務及び権利)

第6条 会員は会則第3条の趣旨にのっとり、会長その他の要請に応じ本会の事業に協力しなければならない。

2. 会員は本会において定める年会費もしくは終身会費を納めなければならない。
3. 会員は氏名、住所、職業など身上に異動を生じた時には、遅滞なく名簿システムに登録しなければならない。
4. 会員は本会の事業に参加することができる。

第3章 役員

(役員の種類)

第7条 本会には次の役員をおく

会長 1名 定例会に於いて正会員の中より推薦し、総会の承認を得るものとする。

副会長 4名 5名以内

会長が正会員より推薦し、総会の承認を得るものとする。

ただし、年齢、性別、職域などに偏りが無いように努める。

顧問 同窓会の役員を永年務め、同窓会に功労のあった人を正副会長会で推薦し、総会の承認を得るものとする。

幹事 会長が、原則として各卒業年度の各学科から1名以上を正会員より選出する。

会計担当幹事 正副会長会において正会員の中から推薦し、総会の承認を得るものとする。

監査役 2名 総会の承認を得るものとする。

(役員の仕事)

第8条 各役員の会務は次の通りとする。

1. 会長は本会を代表し、会務を統理する。
2. 副会長は会長を補佐し、会長に事故があるときはその職務を代行する。
3. 顧問は同窓会の運営に対して助言する。
4. 幹事は定例会を組織し、本会の運営を統轄し、管理する。
5. 会計担当幹事は本会の会計を統轄し、管理する。
6. 監査役は会計その他を監査する。

(役員の仕事)

第9条 役員の仕事は4年とし、再任を妨げない。但し、補欠役員の仕事は前任者の残存期間とする。

第4章 会議

(会議の種類)

第10条 本会の会議は、総会、定例会、及び正副会長会とする。

(総会)

第11条 総会は次の場合に開かれる。

1. 定期総会 毎年1回会長が招集する。
2. 臨時総会 定例会が必要と認めるとき及び2割に当たる正会員が特に開催を請求したとき。

(定例会)

第12条 定例会は、会長、副会長、幹事、会員、準会員、特別会員及び会長が認める者が参加でき、定期的に会長がこれを招集する。

2. 本会の目的を達成するために必要な事業について検討を行い、実施するものとする。

(正副会長会)

第13条 正副会長会は、会長及び副会長で構成し、会務の重要事項について議論するために、必要に応じて会長がこれを招集する。なお、会計担当幹事、監査役および顧問は必要に応じて、会長が招集する。本会は会長の出席と2名以上の副会長の出席をもって成立する。

(会議の議決)

第14条 総会の議決は、出席正会員の過半数の同意をもって成立する。可否同数のときは議長の決するところによる。なお、正副会長会及び定例会の議決は全体的合意で行う。

(総会の議長)

第15条 総会の議長は総会において正会員の中より選出される。

(定例会の議長)

第16条 定例会の議長は、会長がこれにあたる。

(総会の承認事項)

第17条 次の事項は総会の承認を得なければならない。

1. 会長・副会長・会計担当幹事・監査役の選任
2. 事業計画及び収支予算
3. 事業報告及び収支決算
4. その他定例会及び正副会長会が必要と認めた事項

(会議の記録)

第17条の2 議長は各会議における経過について、これを記録しなければならない。

第5章 庶務及び会計

(事業年度)

第18条 本会の事業年度は、毎年4月1日に始まり翌年3月31日に終わる。

(経費)

第19条 本会の経費は原則として会費及び寄付金、その他をもってこれにあてる。

(会費)

第20条 会費は、年会費2,000円とする。終身会員の会費(終身会費)は50,000円とする。ただし、特別会員に会費納入の義務はない。

なお、会員の一親等親族及び会員の配偶者の、年会費及び終身会員の会費は1/2とする。

第20条の2 卒業前(大学院生も含む)の会費の一括納入に関しては以下のように扱う。

10年会費 18,000円(卒業後は20,000円)

終身会費 30,000円(卒業後は50,000円)

第6章 会則の改正

(会則の改正)

第21条 本会則の改正は、正会員がこれを必要と認めた場合、改正案を定例会に提出し承認を経て総会にはかることができる。この場合、総会への提案者は定例会とする。

付則

(平成15(2003)年7月26日改正)

会則は平成15(2003)年7月26日より施行する。

(平成16(2004)年7月24日改正)

会則は平成16(2004)年7月24日より施行する。

(平成17(2005)年7月23日改正)

会則は平成17(2005)年7月23日より施行する。

(平成25(2013)年7月27日改正)

会則は平成25(2013)年7月27日より施行する。

(令和元(2019)年7月20日改正)

会則は令和元(2019)年7月20日より施行する。

(令和3(2021)年7月20日改正)

会則は令和3(2021)年7月20日より施行する。

第六号議案

会長承認の件

1. 定例会において協議した結果、会長として以下の者を推薦する。

会長候補者 23期 上村 直樹 氏

第七号議案

副会長、会計、監査役承認の件

1. 会長候補者を加えた定例会において協議した結果、副会長、会計担当幹事、監査役として以下の者を推薦する。

副会長 16期 武田 直子 氏

16期 田畑 新 氏

22期 磯部 総一郎 氏

25期 伊集院 一成 氏

34期 真野 泰成 氏

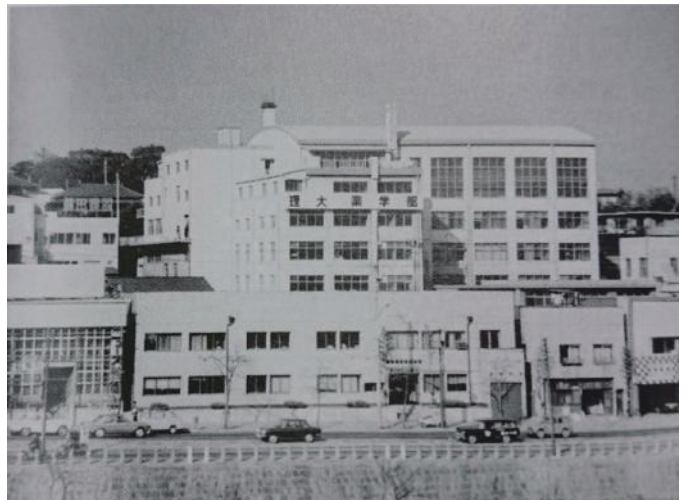
会計担当幹事 22期 牧田 美保 氏

監査役 17期 青山 隆夫 氏

22期 花岡 信子 氏

薬学部写真集

神楽坂の頃



10号館



旧5号館



授業・実験風景



JR 飯田橋駅



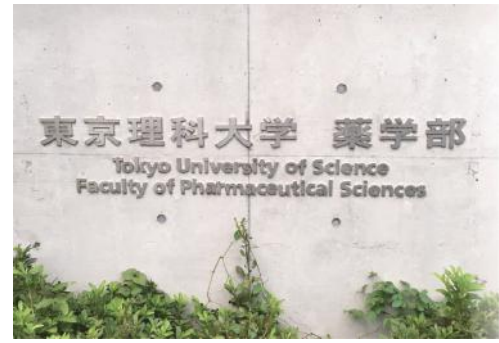
旧駅舎



現在の駅舎



◆◆◆◆◆ 現在の薬学部 ◆◆◆◆◆
(野田キャンパス)



実習風景 (医療薬学実習)



無菌調製



調剤

ホワイトコートセレモニー (4年次終了時)



東武アーバンパークライン運河駅



旧駅舎 「れとろ駅舎」 <http://www.retro-station.jp/>
管理者抹茶様より転載許諾済



現在の駅舎

近況報告



公立大学法人 山陽小野田市立山口東京理科大学 池北 雅彦（12期）

2016年まで務めた東京理科大学を離れ、現在は縁あって本州最西端の山口県にある公立大学法人 山陽小野田市立山口東京理科大学にいます。早いもので東京理科大学薬学部を卒業して46年が過ぎました。

今までに、東京理科大学、東京大学、米ミシガン州立大学、仏ルイ・パスツール大学（現ストラスブール第一大学）でお世話になってきましたが、公立大学は初めてのことで、山陽小野田市、山口県、そして市民、地域の商工会議所、薬剤師会、製薬工業界などとの交流の機会が多く、経験したことのないことにたびたび出会います。

大学がある山口県は、日本海、瀬戸内海、響灘の三方の海に囲まれていて、東は広島県と島根県、西側は関門海峡を隔てた九州の福岡県です。そして、山陽小野田市は山口県の南西部の関門都市圏にあって、下関市、宇部市、美祢市に囲まれた人口約6万人の、瀬戸内海式気候の温暖な地方都市です。

このような素晴らしい場所にある山口東京理科大学は、1987年に学校法人東京理科大学によって当時の山口県小野田市に設置された東京理科大学山口短期大学を前身としています。その後1995年に四年制の山口東京理科大学、2016年からは設置者が学校法人東京理科大学から山陽小野田市となり、工学部の他に2018年からは薬学部が設置されて、大学院生を含めて1380人（令和3年5月1日現在）が在学する小規模な大学です。建学の精神は、東京理科大学の“理学の普及を以て国運発展の基礎とする”を引き継いで、地域社会の発展に寄与する“地域のキーパーソン”の育成に貢献することを目的としています。

山陽小野田に来てはや5年が過ぎました。その間にこちらでもグローバル化、IT技術の急速な進展などの影響を受け、まさしく“VUCAの時代”を迎えています。組織や個人をはじめあらゆるものを取り巻く環境は刻々と変わり予測することが難しく、環境に柔軟に即応する能力が求められています。さらに、今の小学1年生が30歳になる2045年には、全人類の脳の計算能力より高い情報処理能力を持つ汎用人工知能が現われて、新しい仕事

によって雇用も変わることが予測されています。

このような時代に公立大学として、“どのような人材を育てていけばよいのか”、いつも考えさせられています。大学に求められるもののなかには、時代によって変わるものと変わらないものがあります。これからの時代においても求められる資質・能力は、『知識・技能』、『学び続ける力』、『人間性』、『思考力・判断力・表現力』でしょう。多くの学生自らが選んだ本学での大学生活というかけがえのない機会に、各自の専門知識に立脚したこれらの能力を高めて、将来彼らが属する組織において、おおいに活躍できるよう私たち教職員全員で学生を育てています。

一方で、新型コロナウイルスの感染拡大は多大な影響を人の生命や経済などに影響を及ぼしただけでなく、社会のあり方を大きく変えたことは周知の事実です。そのキーワードの一つはいろいろなどころでの“バーチャル化”です。山口東京理科大学でも同じで、教育研究面でもバーチャル化が強制されました。その変化は著しく、単なる独立した教育研究機関だけではない公立大学は、地域の社会や企業とも深く関わっていて、地域と連携した活動でも新たな価値観の創造が求められています。近年、大学は各校の強みや特色を生かした機能強化が進んできました。本学においても今後はさらにこのコロナ禍で明らかになった様々な課題や社会・地域の変化を契機として、コロナと共に生きる時代をチャンスと捉えて大学の機能を強化していくことが本学を大きく前進させることに繋がってゆくと思っております。

山口東京理科大学は、2022年に創立35周年を迎えます。私達は、この記念すべき時に、皆で一致団結して大学を一層大きく飛躍させ、日本で屈指の大学の“いしづえ”にしたいと考えています。そのバックグラウンドにはいつも、東京理科大学そして薬学部で学んだスピリットがあり、とても感謝しています。

山口県にはSNS映え確実な秋吉洞秋吉台、自動車のロケなどでよく使われる角島大橋、元乃隅神社、パワースポット別府弁天池、錦帯橋、そしてフグ、ケンサキイカをはじめ新鮮な海の幸や見蘭牛などおいしいものもたくさんあります。ぜひ本学そして山口県にお越しください。



山陽小野田市のロゴマークと一緒に



東京理科大学の最終講義の時にいただいた色紙

研究室紹介

医療分子生物学研究室



高澤 涼子 (34期)

34期の高澤です。東京都立戸山高等学校を卒業後、1993年に本学薬学部薬学科に入学しました。その後、大学院（修士と博士）も本学薬学研究科に進み、2002年に学位を取得しました。研究室は生化学教室（指導教官は田沼靖一先生）です。ちょうど博士課程を修了した年の4月に、薬学部移転に先駆けて野田キャンパスにゲノム創薬研究センターが設置され、遺伝子・細胞治療部門のポストドク研究員として本学に就職しました。2007年に助教として薬学部薬学科に戻り、2012年からは薬学部薬学科で医療分子生物学研究室を主宰し、現在に至ります。入学してからずっと本学薬学部にお世話になっており、気づいたらすでに四半世紀以上も在籍していることに時の流れの早さを痛感しています。また、私がずっと本学にいる間に、同じ34期の倉持幸司先生が理工学部応用生物科学科に、真野泰成先生が薬学部薬学科に教員として戻ってこられ、うれしい再会を果たすことができました。学生時代を共に過ごした同期が身近にいるということは大変心強く、今後も切磋琢磨していけたらと思っております。

さて、私はアポトーシスの分子機構に興味をもって、学部の卒業研究から田沼先生の生化学教室に所属し、学位取得の研究テーマとして、紫外線照射によって起こるアポトーシスの制御機構の解明に取り組みました。その過程で、アポトーシスがさまざまな疾患の発症、特にがんの発症や、がん細胞の抗がん剤耐性獲得に深く関わっていることを知り、アポトーシス制御を切り口とした制がん剤の創製を行いたいと考えるようになり、ポストドク研究員時代から研究を進めてまいりました。そして当研究室では、抗がん剤耐性がん細胞にも高い効果を示し、かつがん細胞特異的に作用する、新たな作用機序によるがんの分子標的治療薬の創製を目指して研究を行っています。

がん細胞では、正常細胞に比べて非常に高い増殖能がみられたり、アポトーシスによる細胞死が抑制されることによって生存が維持されてしまったりします。私たちは、そのようながん細胞の生存および増殖の維持に重要な役割をもち、がん細胞で高発現しているタンパク質、すなわち、がん細胞において生存能を高めるためにアポトーシス抑制に働いているタンパク質や、増殖能を亢進させるためにエネルギー代謝を変化させることに寄与しているタンパク質を標的とし、*in silico*スクリーニング手法と、活性測定や細胞実験などの生化学的手法を用いて、新規制がん剤の創製を目指して研究を行って

ます。

私たちが阻害化合物創製に取り組んでいる創薬ターゲットタンパク質は2つあります。一つは、がん細胞特異的なエネルギー代謝にかかわる酵素であるGlyoxalase Iです。多くのがん細胞では、酸素が十分に供給されている状態でも、ミトコンドリアにおける酸化リン酸化が行われず、細胞質における嫌気性解糖（解糖系）が顕著に亢進しているという現象がみられます（Warburg効果）。これは、正常細胞では、グルコースをミトコンドリアにおける好氣的呼吸で代謝して、いわば燃料として利用することによって効率よくエネルギー（ATP）を産生するのに対し、がん細胞では、酸化リン酸化をほとんど行わずに解糖系の代謝回転を上げることによって、グルコースをATP産生だけでなく、細胞をつくる材料である核酸、アミノ酸、脂質の合成にも利用して、増殖能を高めているためと考えられます。その一方で、解糖系では代謝副産物として細胞に有害なMethylglyoxalが生成され、その過剰な蓄積は、タンパク質、DNA、RNAを非可逆的に修飾し、アポトーシスを誘発します。このMethylglyoxalを細胞内で無毒化するシステムの律速酵素がGlyoxalase Iです。Glyoxalase Iは、肺がん、乳がん、膵臓がん、肝臓がん、胃がん、大腸がんおよび前立腺がんなどさまざまながんで高発現がみられることが報告されています。さらに、抗がん剤耐性培養がん細胞株においてもGlyoxalase Iの高発現が報告されています。このような知見から、Glyoxalase I阻害剤は、Methylglyoxalを蓄積させることによってがん細胞特異的にアポトーシスを誘導するという新しい作用機序による制がん剤として期待されます。私たちは、このGlyoxalase Iをターゲットとして、これまでにMyricetin, Delphinidine, TLSC702, Piceatannolといった新規Glyoxalase I阻害化合物を見出すことができました。現在、これらの化合物についてさらなる構造最適化を行うことによって、動物実験レベルでも有用性が認められる制がん剤リード化合物の創製を目指しています。

もう一つの創薬ターゲットタンパク質は、内在性のアポトーシス阻害タンパク質XIAPです。XIAPは、アポトーシスの開始に働く酵素であるcaspase-9と、アポトーシスの実行に働くcaspase-3, -7に結合して阻害することでアポトーシスを阻害するタンパク質であり、さまざまながん細胞で高発現がみられることが報告されています。細胞には、XIAPとcaspaseの結合を阻害することで、XIAPによるアポトーシス阻害を解除する因子である

Smacも存在しています。私たちは、このSmacとXIAPの結合部位に着目し、SmacのXIAPへの結合を模倣する低分子化合物の創製を目指して研究を進めています。具体的には、XIAPのcaspase-9結合部位であるBIR3ドメインに結合するSmacのペプチド配列を最適化したAVPFという4残基ペプチドに基づいて阻害化合物を*in silico*設計し、実際に有機化学合成を行って化合物の活性を測定するという、*in silico*設計→有機化学合成→活性測定→*in silico*設計による最適化…を繰り返すことによって、より阻害効果の高い化合物を取得するという研究を行っています。また、XIAPのタンパク質量を減少させる化合物に着目し、XIAPを減少させ、かつXIAPのSmac結合部位にも結合して、培養肺がん細胞のアポトーシス感受性を高める化合物として、トロポロン誘導体であるβ-ツヤプリシン（別名ヒノキチオール）を見出しました。そこで、トロポロン誘導体の中から、XIAPの量の減少

とSmac結合部位への結合という2つの作用をもつ新規XIAP阻害化合物が見出せることを期待して、構造活性相関解析を進めています。

研究室を立ち上げて早10年目となり、専門の生化学に加えて、有機合成、分析、動物実験、データ解析と、薬学部の先生方や同期の倉持先生など、多くの先生方のご協力、ご指導のおかげもあり、研究の幅を広げていくことができているのは、本学薬学部の素晴らしいところだと思います。研究室の学生にも、研究において仮説を立てて論理的に実験で検証するという過程を楽しんで、さまざまな分野の先生方や学生さんと交流して積極的に学んでいけるように指導し、そして、研究室での生活とそこで一生懸命研究を行ったという経験を生かして社会で活躍できる人材を育てていけるよう努力していきたいと思っています。

研究室紹介

免疫創薬学研究室



原田 陽介 (32期)

薬学部の思い出

薬学部同窓会の皆様には大変お世話になっております。私は、1995年に本学薬学部薬学科を卒業しました(第32期)。大学院は北海道大学大学院薬学研究科に進学したので、本学薬学部には4年間しか在籍していませんでしたが、研究者として生きていくことを決意するに至ったいくつかの出来事が学部時代にありました。研究室の紹介の前にその出来事についてお話させていただきます。

1つ目は3年生のときに携わった実験補助のアルバイトです。臨床病態学教室にいらした浅川英男先生がご自身の研究を進めるためにアルバイトを募集されていて、雇っていただきました。実際の実験は山口稽子先生にご指導いただき、浅川先生が取得したガン抗原に特異的なモノクローナル抗体のエピトープを同定することを目標に実験を行いました。クロマトグラフィーによる抗体の精製やウエスタンブロットによる抗原の検出などの生化学的な手法を教えてくださいましたが、その過程で実験そのものの楽しさを知ると同時に、これまでの授業では味わうことのなかった誰も知らないことに挑戦する喜びを知ることができました。その後の免疫学への興味もこのときの実験がきっかけの1つとなっています。楽しい上にお金も稼げてしまうこのアルバイトに授業もサボって熱中していましたが、あの当時は時代の雰囲気もゆるく、それをうるさく言われることもなくやらせていただ

けたことは非常に幸運だったと思うと同時に、今の学生たちは色々厳しく管理されていて可哀想だなと思うことがあります。浅川先生はその当時60代半ばだったと思いますが、全く研究に対する情熱が衰えることはなく、絶対にエピトープを同定してやろうという熱意がまだ3年生だった私にも伝わってきました。浅川先生、山口先生とは、私が大学院を卒業後アメリカに留学する直前に野田の学食で偶然お会いしたのが最後でした。お二人に研究室を薬学部を持つことができたことのご報告ができなかったことが今でも心残りです。

2つ目は、4年生の時にに行った卒業研究です。その当時アポトーシスの研究が盛り上がりを見せていて、その分野を牽引されていた田沼先生のもとで卒業研究をさせていただきました。アポトーシスを誘導した細胞は、通常アポトーシス小体というものを形成し、細胞が細かく断片化してしまうのですが、ある酵素に対する阻害剤を加えたところ、アポトーシス小体は形成されず、見た目はアポトーシスを誘導していない細胞と区別できませんでした。しかし、ゲノムDNAを電気泳動で確認したところアポトーシスの特徴であるDNAの断片化はきちんと起こっていました。その酵素がアポトーシス小体の形成に必須であることを発見した瞬間でした。その時顕微鏡でみた細胞の形態はいまでも目に焼き付いています。それが本当に誰も知らない新しい発見だったのかは4年生の当時はわかりませんでしたが、「新たな発見」をす

る喜びをその時初めて味わいました。

研究室を立ち上げてから7年目に突入し、博士課程にも学生がきてくれるようになりましたが、私が学生時代に研究をする中で味わった興奮、喜びを一人でも多くの学生に味わってもらいたい、そして一緒に味わいたいと常々思っています。

免疫創薬学研究室の研究テーマ

免疫創薬研究室（原田研）では免疫応答のなかでも抗体がいかにして体内でつくられるのか、そのメカニズムを細胞レベル、分子レベルで明らかにしていくことを目標にしています。抗体はB細胞が産生する分子ですが、そのB細胞の抗体産生を主にコントロールしているのがT細胞であり、私たちは特にT細胞がどのようにB細胞を制御して抗体産生を促進したり、抑制したりするのかを調べています。体内に異物が侵入するとB細胞はそれらの異物を認識し、活性化して異物に特異的な抗体を作り出すわけですが、いい抗体をより多く作り出すためにはヘルパー T細胞による助けが必要です。ヘルパー T細胞はすべてが同じ機能を持っているわけではなく、様々なタイプの免疫応答を制御するために役割分担をしています。B細胞を助けることに特化したヘルパー T細胞は濾胞性ヘルパー T細胞（Tfh）とよばれています。学生時代に免疫学を勉強した方でも耳慣れないヘルパー T細胞だと思いますが、比較的新しく同定されたT細胞であり、ここ10年ほどで研究が進み大学の教科書にも記載されるようになりました。Tfhは抗体産生をコントロールする重要な細胞であるにも関わらず、まだ不明な点が多く残されています。そこでTfh細胞の分化、機能発現、そして免疫応答後の記憶細胞への分化という一連の流れを細胞レベル、分子レベルで明らかにしようと考えています。この流れがよくわかってくれば、よりよいワクチンの開発にも役に立つと思われれます。競争の激しい免疫学の世界で勝負するためには他の研究者ができないことを可能にする実験システムを構築する必要があると考え、研究室の立ち上げに際し、まずはTfh細胞特異的に遺伝子の欠損を誘導することができるマウスの開発に取り組みました。ある遺伝子の機能を調べるときにノックアウトマウスを用いることが常套手段ですが、体中のすべての細胞でその遺伝子がない状態では、ある免疫反応が変化した場合にどの細胞における遺伝子欠損が影響を与えたのかをはっきりさせることはできません。そこでTfhの機能を知るためにはTfhになった細胞だけで遺伝子を改変できるシステムが必要になります。これまでにそのようなことができるマウスは世界に存在していませんでしたので、そのマウスの開発に成功し、論文を発表した後に

は欧米を中心に複数の研究室からそのマウスを使わせてほしいとの依頼が来ています。今後はこのマウスを用いてTfhに発現する様々な遺伝子を欠損させることで、Tfhの機能発現メカニズムの解明を目指していきたいと思っています。現在Tfhで欠損させようとしている候補遺伝子の1つがPD-1です。ご存知のようにがん免疫療法に革命をもたらしたオプジーボのターゲット分子ですが、Tfhにも高発現していることが知られています。TfhにおけるPD-1分子の機能を明らかにできれば、抗PD-1抗体を治療で用いた際の抗体産生に対する影響を予測することも可能であると考えています。

抗体には体に役に立つ抗体と体に害を及ぼす抗体があります。役に立つ抗体は病原体を排除してくれる抗体ですが、害を及ぼす抗体は自己免疫疾患やアレルギー疾患を引き起こしてしまいます。この悪さをする抗体が作られないようにしてくれているのが、制御性T細胞（Treg）です。私達はこのTregがどのように自己抗体やIgEを抑制しているのかも研究しています。これもマウスを使って調べるのですが、Tregが生まれながらにしてないマウスは激しい炎症のため、生後1ヶ月程度で成体になる前に死んでしまいます。このマウスで抗体産制御を調べることは困難なため、私たちは自分たちの好きなタイミングでTregの機能をなくすことができるマウスモデルを作成しました。このマウスにある薬剤を投与するとTregを維持するための遺伝子が欠損して、Tregが機能不全になります。その結果、自己抗体やIgEの上昇が始まります。このマウスを用いて悪い抗体がどうやってできるのかを研究し、自己免疫疾患やアレルギー疾患の発症メカニズムの解明につなげていきたいと思っています。

最後に

私の学生時代には免疫学の授業はありませんでしたが、その頃から免疫学に強い興味を持ち、自分なりに専門書などを読み勉強していました。当時は免疫学の先生が近くにいたらどんなにいいだろうと思って過ごしていました。その後、実際に免疫の研究をするようになり、卒業から20年を経て母校に免疫学の研究室を立ち上げることができました。幸運にも私が学生の頃に望んでいた環境を作ってあげられる立場になったのですから、授業や研究活動を通して、一人でも多くの後輩たちに免疫の面白さを伝えたい、そして免疫学の研究者を育てていきたいと思っています。免疫学を牽引している世界のビッグラボとの競争は非常に困難ですが、その世界にたとえ小さくても爪痕を残し、その爪痕が多くの研究者に影響を与えるような研究をしていきたいと思っています。

恩師からのたより

～ヨボヨボの後期高齢者からのたより

武田 健



はじめに

「恩師と呼ばれることは何一つして来なかったので、同窓会雑誌からご依頼いただいた原稿は書くことができません」とお断りしていました。しかし、編集者からの説得に、在職中から今まで理科大学薬学部同窓会からいただいているご恩に少しでも報わなければという気持ちに替わり、恥を忍んで駄文「ヨボヨボの後期高齢者からのたより」を皆様の前にさらすことになりました。私は、1995年から2014年まで薬学部在職していました。現在は、本州の西の端、山口県で単身赴任生活をしながら息も絶え絶えの後期高齢者生活を送っています。

勤務先の紹介

山陽小野田市立山口東京理科大学、日本一長い大学名を持つ公立大学の薬学部勤務しています。市立山口東京理科大は、1987年に設置された東京理科大学山口短期大学を前身とし、95年に4年制に改組。2014年に組織改革を進める同大学と薬学部設置を目指す山陽小野田市が公立大学法人化に合意しました。薬学部は創設から今まで、何とんでも親元の東京理科大学から全面的なご支援助指導を受け、今でも包括的な連携協定のもと、様々なことで交流をもたせていただいております。東京理科大学には心より感謝している次第です。

ここで、若干、当薬学部の紹介をしたいと思います。山口県では初の薬学部として、また、西日本では唯一の公立の薬学部として2018年に設置されました。岐阜、静岡、名古屋に続いて全国で4番目の公立の薬学部になります。地域に貢献する日本一の薬学部を創ることを目標に、大学の教職員を核に山陽小野田市はもちろんのこと、山口県の関係者が加わった大きなチームが協力して大学の教育研究を進めてきました。大学と地域が一丸となって山口の地に、日本の薬学部のモデルになるような特色ある薬学部を創り、「薬学をとおして人の健康を守る」ことを目的に、地域の発展に貢献していくことを目指しています。

設置後、池北雅彦大学理事長は、山陽小野田市をはじめ、山口県薬剤師会、山口県病院薬剤師会、山陽小野田薬剤師会、山口県製薬工業協会、山陽小野田市民病院などの諸団体と矢継ぎ早に包括連携協定締結されました。当薬学部の特色をお伝えするために、上記の一つ県薬剤師会との連携について思い浮かぶままに箇条書きで紹介いたします。

山口県薬剤師会との連携関係（地域と共に）

1) 学術大会

2019年10月第52回薬剤師会学術大会は山口県薬剤師会が当番に当たり、下関市で開催されました。その時薬学部在学していたほとんどの1、2年生が朝早くからバスを連ねて下関に参上、学会運営をお手伝いしながら本庶佑ノーベル賞受賞者講演を拝聴し、学生シンポジウムに参加するなど学会を初体験しました。（この大会期間中、老舗のフグ割烹店で開かれた東京理科大学の薬学部同窓会に山口理科大学薬学部の教員が招待を受け、懇親・交流の機会を設けていただいたことは、大変ありがとうございました、貴同窓会に感謝しております。）

2) 薬剤師会学生会員

今では薬学部のほぼ全学生（1～4年生）が薬剤師会学生会員になり、薬剤師会の情報を自由に活用できるようになっています。

3) 県薬剤師会機関紙

山口県薬剤師会機関誌YPジャーナル（毎月発刊）に毎月当薬学部の研究室の紹介記事数ページ分を掲載させていただきます。

4) 大学院設置構想

完成年度後には4年制の大学院を設置する予定で、その申請内容を準備中ですが、特に社会人博士課程については、県薬剤師会幹部と定期的に協議を重ね、薬剤師会会員が博士号を取得しやすい構想案を協議してきました。

5) 県薬剤師向けオープンキャンパス

県内薬剤師さんを対象にオープンキャンパスの開催を企画し（2021年9月）、薬学部紹介、教員・研究紹介、研究室・施設見学などを予定しています。

山口県薬剤師会2600名の会員が一体となって、熱心に薬剤師教育を支援、応援していただきますので、私たちにとって心強い限りです。上村同窓会会長の薫陶を受け、教員としても活躍している山本晃之山口県薬剤師会専務理事の存在と役割には大きなものがあります。

研究室の紹介

衛生化学分野は私と立花研准教授（37期生、2000年卒）、小野田淳人助教（50期生、2013年卒）が担当しています。衛生化学の薬学教育・薬剤師教育に果たす役割は大きい。その役割の大部分を立花准教授が担っています。立花准教授の講義・実習にかける情熱と周到な準備は半端でなく、学生をたっぷり鍛えています。その結果、学生さん

からの信頼、人望は極めて高いものがあります。一方、小野田助教は、上皇陛下の天皇即位20年を記念して設置された育志賞を、大学院博士課程の時に受賞し、学生・大学院生の時から教育に携わってきた経験を活かし、薬学部の研究・教育に新風を吹き込んでいます。最近、学研から全国の中学生に向けて理科の参考書「中学やさしい理科」を出版しました。とてもわかりやすく魅力的な本で、同窓の皆様方、及び関係者にも是非、目を通していただければと思います。申し訳ないことに、私の方は、衛生薬学の教育と研究に関し、お二人の先生に“おんぶにだっこ”という状態です。

私の日常生活

単身赴任生活もだいぶ板についてきて、ときどき勤務の帰りにスーパーに立ち寄り（大学から家まで4kmの間にスーパー3件、コンビニ5件、食料の買い物では困らない）、ショッピングをしています。長門あるいは萩の漁港からやってくる刺身（夕方から半額）と卵、納豆、豆腐、豚肉、野菜などを仕入れ、毎日のように納豆と寄せ鍋料理を食べています。同じようなものを食べていることは、アルバイトとしてスーパーのレジに立ち、籠に一品一品を移してくれる研究室の卒研生によっても確認されています。

夜がめっぽう弱い小生は、大学は6時から勤務、週末は朝早く山陽小野田市の江汐公園（外周5km）、宇部市

の常盤公園（一周7km）をウォーキングしています。先日、両公園に少し飽きたので秋吉台カルスト台地をウォーキングしましたが、人影がまったくなく、林に入るとイノシシ？（熊ではないことを祈っています）が食べ散らかしたタケノコの皮が散乱し、また、頭の周りをスズメバチが大きな音を立てて飛ぶので、この蜂に刺されたら命はないなど、時々恐怖の中で生きていることを実感しています。

おわりに

倫理観を持ち、豊かな人間性を備え、課題を見出し、解決する能力を備えた質の高い薬剤師を養成すること、地方創生、地域への貢献のため、地域と一体となった活動を進めていくことをこれからも心掛けていきたいと思っています。学生が山陽小野田の地で生活し、地元の人たちと触れあいながら、どのように地域に貢献する気持ちを醸成するかも重要です。地域に貢献したいという想い、志を育み、山口県に限らず、各地でそれぞれが地域に貢献する活動を積極的に展開してくれることを望んでいます。

現在、4年生が最高学年、これから卒業研究を行いながら共用試験、実務実習、国家試験、就職と薬学教育の後半戦が待っています。当薬学部にとっては未知の領域です。先輩の薬学部同窓諸氏のご指導ご支援を賜れば幸いです。今後ともどうぞ宜しくお願い申し上げます。



大学キャンパス 薬学部棟（6、7号館）

生涯学習プログラム 2021年度後期講座のご案内

オンライン (Zoom) 配信により開催

東京理科大学薬学部 医療薬学教育研究支援センター (SCCPEP) は、本学薬学部と各医療機関、製薬企業および医療行政などを繋ぎ、充実した臨床薬学教育および臨床研究を支援するために設けられた薬学部の附属機関です。薬剤師をはじめ薬学関連の社会人のスキルアップと研究活動を支援し、これら薬学の産官学連携を通じて、学部での実践的薬学教育の充実に繋がります。

また、本学の社会人大学院を活用して医療および製薬の現場で働きながら研究し、学位取得を目指す方の活動を支援します。どうぞご相談ください。

薬剤師のためのスキルアップ講座シリーズ

日々進化する薬物治療に関する知識のアップデートだけでなく、エキスパート養成、臨床研究の実施に役立つ講座を通じて薬剤師のスキルアップを目指します。

薬物治療アップデート講座	受講料：各回 3,000 円	日程
「加熱式たばこの真実と最新の禁煙治療 (仮)」 「生活に根差した薬用植物の化学 (仮)」 鈴木立紀・安元加奈未(東京理科大・薬)		10/30(土)
サイエンス漢方概論 - スポンサー講座(ツムラ株式会社) - 「漢方薬の薬理的作用 (仮)」 磯濱洋一郎(東京理科大・薬) 「漢方薬の副作用 (仮)」		12/18(土) (予定)
本間真人 (筑波大学附属病院 薬剤部長) 「Common Disease に使える漢方薬概論」 井齋偉矢 (日高徳洲会病院 院長)	※本講座は 受講料無料	
「睡眠薬の適正使用と睡眠衛生指導」 「統合失調症の薬物療法と生活指導のポイント」 功刀浩 (帝京大学医学部 教授)		2022 年 1/8(土)
「薬物相互作用のリスクを予測する」 伊藤清美 (武蔵野大学薬学部 教授) 「臨床現場で使える有機化学」 高橋秀依 (東京理科大・薬)		2022 年 1/22(土)

基礎薬学スキルアップ講座	受講料：各回 3,000 円	日程
「文献検索の仕方」 青山隆夫、嶋田修治 (東京理科大・薬)		10/2(土)
「学会発表の仕方・論文の書き方」 青山隆夫、嶋田修治 (東京理科大・薬)		10/23(土)

エキスパート養成講座	受講料：各回 5,000 円	日程
【アカデミックディテラー養成プログラムについて】 このプログラムでは事前の自宅学習が必要です。約 1 か月前に学習用資料 (課題・動画等) をメールで送付します。		
「第 4 回アカデミック・ディテラー養成プログラム C: アカデミックディテリングを実践しよう！」 小茂田昌代 (東京理科大・薬 嘱託教授) 後藤恵子 (東京理科大・薬 客員教授)		12/18(土)
「第 4 回アカデミック・ディテラー養成プログラム D: 臨床論文の批判的吟味を学ぼう！」 山本紘司 (横浜市立大学 医学部 准教授)・小茂田昌代 (東京理科大・薬 嘱託教授)		2022 年 2/20(日)

【申込方法】医療薬学教育研究支援センターHPの申込フォームよりお申込み下さい。自動返信メールで受講料のお支払方法などをご案内します。各講座の申込サイトは開催準備が整い次第、順次開設いたします。

【会場及び開催方法】通常は東京理科大学神楽坂キャンパスを利用して集合研修をおこなっていますが、今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止措置のため、オンラインで開催いたします。

【ご注意ください】オンライン (Zoom) 配信により開催しますが、状況によっては配信方法の変更、講座の中止・延期場合があります。お申込みの際は HP で最新情報をご確認ください。どうぞよろしく願いたします。

レギュラトリーサイエンス研修講座シリーズ

薬学関連のレギュラトリーサイエンス (開発・評価・PV など) の知識や考え方を体系的に修得することを目指します。

医療機器講座	受講料：4,000 円	日程
「タイトル未定」 講師未定		日程調整中
医薬品開発等講座	受講料：各回 4,000 円	日程
「Decentralized Trial の展望」 講師未定		12 月予定
「ワクチン開発に関するガイドライン改訂案について」 講師未定		2022 年 1 月予定
医薬品品質・GMP 講座	受講料：各回 4,000 円	日程
「医薬品の流通規制と実際」 木村和子 (金沢大学 特任教授) 松本欣也 (日本通運株式会社ロジスティクス事業支店 医薬品事業推進シニアアドバイザー)		11 月予定
「GMP 違反問題を考える～今後の課題～」 蛭田修 (熊本保健科学大学 特命教授) 實田哲仁 (東京理科大・薬)		12 月予定

企業・薬局におけるリスクマネジメント講座シリーズ

医薬品・食品のリスクコミュニケーションを実施するための知識や技術の修得を目指します。

食品安全講座	受講料 (全 5 回分)：15,000 円	日程
「食品における毒性学」全 5 回 山添康 (東北大学 名誉教授) 開催日：10/13(水),10/27(水),11/10(水),11/24(水),12/8(水)		
「アレルゲンのリスク評価」 丸井英二 (人間総合科学大学 教授) 内閣府食品安全委員会	受講料：3,000 円	日程調整中
「トランス脂肪酸のリスク評価」 山添康 (東北大学薬学部 名誉教授)	受講料：3,000 円	日程調整中
リスクマネジメント講座	受講料：各回 3,000 円	日程
「SNS による情報提供とリスクコミュニケーション」 小野間良 (前厚生労働省クラスター対策班 コミュニケーション担当)		2022 年 1 月予定
「企業における BCP とリスクコミュニケーション」 小山和博 (PwC あたら有限責任監査法人 レギュラトリー・フィナンシャルマーケット・アドバイザー部 シニアマネージャー)		2022 年 1 月予定

各セミナーの詳細情報・お申込みはこちら
東京理科大学薬学部 医療薬学教育研究支援センター
<https://www.tus.ac.jp/sccper/>



祝 薬学部創設60周年

理窓会会長 増淵 忠行
(1968理学部1部物理学科卒)



1960年（昭和35年）4月、新宿区船河原町で誕生した薬学部がこのたび還暦を迎えられました。薬学部OBOG、教職員、関係者の皆さま、創設60周年誠におめでとうございます。理窓会を代表し心からお祝い申し上げます。

5期生の皆様との思い出

私は薬学部5期生の皆様と同じ1964年、前回の東京オリンピックが開催された年に入学しました。入学し少し落ち着いた5月頃だったでしょうか、薬学科と物理学科の有志が集い、三浦半島に合同ハイキングに出かけたこと、薬学部の体育館での体育の授業や、2018年のホームカミングデーでは、世話人代表の山田高照さん、桑原亮吉さんや榎原元経団連会長の奥様などと一緒に「卒業50周年祝賀懇親会」を楽しんだことなどを思い出しております。

オリンピックを通して

東京での夏季オリンピックは3回目だったのでしょうか。

1度目は1940年（昭和15年）9月21日から10月6日まで、東京府東京市で第12回夏季オリンピックが行われる予定だったが、支那事変のため開催権を返上された。昭和16年3月物理学校卒業の父から何度か当時の話を聞いたことがあります。そして前回1964年の第18回大会は、秋晴れの10月10日に開会されました。当時、私は理科大1年生で、偶然入手できたホッケー競技を駒沢競技場で観戦しました。インド、パキスタンといった金メダルを争うチームや日本が出場した試合でした。閉会式の夜は原宿に下宿していた従弟と一緒に国立競技場の花火を眺めたことを覚えています。

そして今回の第32回大会はCOVID-19が猛威を振るい、賛否両論入り乱れる中でしたが、8月8日無事閉会しました。私は自宅でテレビ画面を通し、いろんな競技を観戦し、多くのことを学ばせていただき、数々の感動も味わいました。ここではその内容には触れませんが、一昨日（8/7）市内の老人病棟に入院している父（満100歳）と、病院のテレビ画面を通してでしたが面会でき、「オリンピックも間もなく終わるよ」と話したら、「それはよかった、よかったな」と応えてくれました。

薬学部ご出身の多くの方が、厳しい環境下で献身的な対応をされたことなどでオリンピックが実施でき、数々の感動を目にできたことを心から感謝申し上げます。

with corona時代の理窓会活動

昨2020年の年度当初は、ZOOMの使い方もよく分からず、薬学部同窓会長の上村先生からいろいろ教えていただきました。おかげで、ほとんどの会議や情報交換はZOOM利用でできております。事前準備をしっかりと行い、これまで以上に改善されたところが多々ありますが、文字や数字で表現しきれない微妙なところでの悩みもありません。

私は2度目のワクチン接種を受けて1か月半近くになります。抗体もできたかと思いますが、過信せずこれまで通りの予防策を徹底して過ごしなが、山積する課題整理に取り組んで参ります。

2021年度ホームカミングデー

昨年度はコロナ対策で企画実行部会活動を行うことができず中止しましたが、今年度は「オンライン開催」として実施しようと、企画実行部会活動を進めております。ZOOM利用の会議ですが、順調に事前準備が進んでおります。とは言え、インド型などの変位株により、感染者が急増しているため、更に気を引き締め、準備を進めて参ります。

ホームカミングデー当日（10月31日）のガイドブックを作成し、薬学部同窓生の皆様には薬学部同窓会誌「ふなかわら」に同封させていただけることになりました。

ホームカミングデーは2005年に理窓会ルネサンス立ち上げ時に立案され、2006年に第1回開催のイベントですが、地方にお住まいの方にはなかなか参加しにくいイベントかと思っております。災い転じて・・・ではございませんが、今年度はオンライン開催としますので、是非ご参加ください。

皆様のお力をお借りし

薬学部同窓会の皆様の専門的な知識と経験を生かし、コロナに打ち勝ち、平穏な日々が過ごせるようお願いしております。

60年前（1960年4月）に船河原に誕生した薬学部は2003年4月野田キャンパスに移転し、2025年には葛飾キャンパスに移転される計画です。その時々「初心」を忘れず、日本に、世界の誇れる薬学部としてますます隆盛されますことをご祈念申し上げます。

(2021年8月9日書く)

薬学部同窓会は同窓生の真心と会費で運営されています

薬学部同窓生の皆様、日頃より同窓会活動にご協力戴きありがとうございます。

また、引き続き会費納入をいただき本当にありがとうございます。同窓会幹事一同心からお礼申し上げます。今年度も2021年度会費納入をお願いいたします。

そして、本年度から新たな同窓生となられました2021年3月卒業生58期、大学院修了の皆様、ならびにご父兄

の皆様からも本同窓会活動に賛同を得ることができましたことを本当にうれしく思っております。東京理科大学薬学部同窓会は、薬学部同窓生の強い絆のもと独自の同窓会として同窓生の真心と会費により運営されております。

なお、ご寄付も受け付けておりますので、どうぞよろしくようお願い申し上げます。

2021年度会費納入手続きについて

◆あなたの会費納入状況

ふなかわら送付時の封筒の宛名の下部に記載あり（ご確認ください）

終身会員・∞

終身にわたり会費を納入済みの正会員の方：入会後どの段階でも納入可能です。一度の納入で終身会員となり、次年度からの納入は不要となります。納入年度にかかわらず、ふなかわらにお名前を記載させていただきます。

20××年3月まで済み

20××年3月まで会費納入済みの正会員の方：会費納入年度のふなかわらにてお名前を記載させていただきます。

2021年度・お願い

2021年度の会費未納の会員の方：会費納入をどうぞよろしくお願い致します。

◆会費納入方法

同封の郵便局振替用紙をご利用ください。

◆会費金額

年会費2,000円（何年度分でも納入できます）、終身会費50,000円

☆ただし、家族会員（正会員の一親等親族および配偶者）の年会費・終身会費は1/2

令和2年度 会費納入額詳細（令和3年3月31日現在）

	年会費納入		終身会費納入		寄 付 金		合計金額
	金額	人数	金額	人数	金額	件数	
令和2年度卒業・修了者	36,000	2	960,000	32	0	0	996,000
既卒者	320,000	49	805,000	17	90,000	4	1,215,000
合 計	356,000	51	1,765,000	49	90,000	4	2,211,000

薬学部同窓会会員数（令和3年3月31日現在）

	卒業生数	終身会員	年会費会員
卒業生	10,416名	2,273名	958名
大学院修了生	224名	19名	8名
合 計	10,640名	2,292名	966名

定例会に参加しませんか!

本年度からZOOMでの参加も可能です。
 神楽坂での参加が難しかった地方の同窓生、大歓迎!!
 4回/年開催してます。
 詳しくはホームページをご覧ください。





「東京理科大学140周年 野田キャンパスの桜と街灯フラッグ」
真野泰成（副会長）撮影

東京理科大学薬学部同窓会へのお問合せ

【事務所・連絡先】

東京理科大学薬学部 同窓会事務局
〒278-8510 千葉県野田市山崎2641 東京理科大学薬学部内16号館1F
FAX：04-7121-4531 E-mail：jimu@ridaiyakudo.gr.jp
FAXまたはE-mailのみの受付とさせていただきます。

【ホームページ】

<http://www.ridaiyakudo.gr.jp/>
行事などに関する最新の情報を掲載しておりますので是非ご覧ください。また、ホームページのWEB名簿システムを利用して、パソコンから登録情報の変更をすることができます。ぜひご利用ください。

編集後記

今回の「ふなかわら」（第33号）はいかがでしたでしょうか。新型コロナウイルス感染拡大が続いており、この原稿を書いている時点で、東京都内は緊急事態宣言中です。「ふなかわら」では、毎号、同窓生が集まって開催される地区交流会や、各期の同窓会の様子を写真付きで報告しています。しかし、昨年よりコロナ禍でこれら同窓生が集まる機会が無くなり、報告する紙面スペースが減ったことで、33号「ふなかわら」冊子が薄くなってしまふのでは！という危機に直面しました。そこで、今回は、その紙面スペースを活用し、薬学部校舎や界限、実習風景等の今昔写真を掲載しました。昔の懐かしい思い出が少しでも蘇ったでしょうか。コロナが終息し、同窓生が集まって対面での交流が再開できることを希望します。ちなみに、現在「同窓会定例会」はオンラインで開催され参加がし易い状況ですので、気軽に参加することができます。詳細は同窓会ホームページをご覧ください。（Y.M）

令和3年度同窓会幹事一覧

小原 侃(1)	安達 順一(11)	日向 太郎(15)	永井 健一(19)	森田 深雪(23)	神谷 貞浩(29)	高橋 智至(40)
黒崎 浩己(1)	石井 甲一(11)	和田 浩志(15)	長谷川 俊雄(19)	桐井 まゆみ(23)	内村 兼一(30)	高橋 香里(43)
山口 堅志郎(1)	小暮 涉(11)	遠藤 健治(16)	小松 俊哉(20)	秋山 裕(24)	水 八寿一(30)	藤野 由香(43)
生田 喜良(2)	岡宮 智子(11)	関口 真紀子(16)	飯野 直子(21)	五十嵐 澄枝(24)	菊地 主税(31)	杉野 弓恵(43)
鈴木 洋雄(3)	富秋 英志(11)	田畑 新子(16)	吉田 雅人(21)	金 道枝(24)	高川 正明(31)	永松 本一(43)
中村 洋司(3)	向井 恒一(12)	田 直和(16)	牧田 保子(22)	佐藤 修一(24)	中川 正一(31)	森松 悠一(43)
池田 幸雄(4)	飯島 康典(12)	今 和枝(16)	花園 信秀(22)	石井 丈久(25)	佐々木 悦史(32)	高尾 圭一(45)
幡野 千丕(4)	金澤 幸江(12)	渡部 敏行(16)	安藤 秀一(22)	伊原 一成(25)	渡邊 昌徳(32)	高尾 隆一(46)
山田 照(5)	青山 貴代子(12)	青山 隆夫(17)	磯部 総一郎(22)	原 靖明(25)	小島 史徳(34)	岡田 隆(50)
湯田 康勝(5)	田端 敬一(12)	押尾 茂(17)	小川 政彦(22)	小林 寧(26)	野村 昌織(34)	岡田 あさ(52)
藤井 幸子(6)	根元 恒一(12)	武田 邦之(18)	柏田 弘(22)	関根 靖之(26)	宮田 正介(35)	龍宮 悠一(52)
寺山 博行(7)	小高 文由(13)	関 裕史(18)	樽野 弘二(22)	若松 克(26)	金井 亮(37)	高橋 悠一(52)
松岡 幸隆(8)	石井 修(14)	渡辺 宏二(18)	高井 幸和(22)	小川 順子(27)	浅井 有香(40)	浅井 悠一(53)
奥村 成太(8)	岩崎 典修(14)	山内 紀子(19)	和田 恵(22)	稲村 伸二(27)	上林 敦(38)	野田 悠一(54)
武尾 勝(9)	畑中 典(14)	小川 恵津子(19)	上村 知夫(22)	久米 千恵(27)	遠藤 智子(39)	野田 悠一(54)
中島 敏夫(10)	林 典(14)	小嶋 康正(19)	上村 直樹(23)	前田 真(27)	金枝 有香(40)	田代 悠一(54)
原 しげ子(10)	昌子久仁子(14)	鈴木 康正(19)	佐藤 薫(23)	秋本 和憲(28)	澤井 美里(40)	西 悠一(54)
石井 啓子(10)	菅原 伸治(15)	高梨 契典(19)	中村 直樹(23)	大瀧 和憲(29)	柴崎 光太郎(40)	